

キャプテンズ・ミッション 2007 年度上期 CHQ業務総括

CHQ 業務全般

キャプテンズ・ミッションは全都道府県協会で定着し、サッカーファミリー拡大に向けての施策が実施されている。それを、更に活発にするための各種活動を行った。

- 2008～10 年度の各種支援制度の概要を決定した。
- 全都道府県協会で常勤事務局体制が整備され、また法人化も 46 都道府県協会で認可が下りる等、組織体制の整備が進んだ。市区郡町村協会にも都道府県協会が積極的にミーティング等を働きかけ、連携が少しずつ良くなってきている。
- ミッション毎に都道府県協会担当者を集めたジョイントミーティングを開催し、他県の状況を知ることによる参加者の意欲向上、ノウハウの持ち帰りに寄与し、参加者同士の横の繋がりを深めた。特に、全てのミーティングに一人ブレストからグループディスカッションを行うという手法を導入し、活発な意見交換を行うことができた。
- 5 回目の CHQ 都道府県協会ミーティングを 7/5～9/17 にかけて実施し、2・3 種年代の能力別・年間リーグの推進、フットボールセンターの整備・活用等のテーマを中心に、JFA と都道府県協会で意義あるディスカッションを行うことができた。また、キッズから 4 種・3 種・女子という繋がりのもとでの選手育成という課題抽出も行うことができた。
- 都道府県フットボールセンターの整備に向けて、各都道府県協会は自治体や企業にアプローチを行い、候補地の選定が進んできた。また、天然芝の啓発について、西洋芝のポット苗方式の研究を進め、従来より取り組んできた有識者との対話を行うことで、ガイドブックの製作準備および今後の活動拡大に向けての基礎作業を行った。
- サッカーファミリーの定義を行い、全国理事長会議・CHQ 都道府県協会ミーティングで、共通理解・浸透に努めた。

M 1：「JFA メンバーシップ制度」の推進

- サッカーファミリーの定義を明確にし、新たな登録もしくはファミリーのカテゴリーを具体的に提示しながら、CHQ 都道府県協会ミーティングを通じてコンセプトの説明を行った。
- 「JFA メンバーズサイト」として「JFA コミュニティ」を整備し、審判・指導者登録メンバーへの情報提供を充実させた。
- サッカーファミリーにおいて大きなカテゴリーとなりうる「ファン登録」を検討すべく、Web サイトの活用、チケット販売との連動、情報提供の充実等について議論を行った。
- 登録者への全体メリット／ベーシックサービスとして、「情報戦略プロジェクト」と連携しながら、JFA 関連情報の精査を行い、ファン登録との連動を検討しているが、未着手のカテゴリーを含めた各カテゴリーの登録制度の構築・推進には至っていない。

M 2：「JFA グリーンプロジェクト」の推進

- 芝生の有識者へのヒアリングや芝生化活動の視察・実験等を通じて、具体的なプロジェクトの推進イメージが固まりつつある。また、「スタジアムの芝生から身近な芝生まで」という天然芝の普及に関する JFA が考える将来像の提示に向けて、そのイメージも固まりつつある。特に、啓発活動およびプロジェクトパートナーの仕組みも絡めた「ポット苗の芝生トライアルキット」の提供の構想を検討した。
- 都道府県フットボールセンター整備推進事業については、2008 年度助成の手引き・要項を展開し、各地からの要望を受ける準備を整えた。また、JFAnews における都道府県フットボールセンター整備推進事業の取り組みの紹介や、都道府県協会の設置に向けたプロジェクトチームミーティングへの参加等を通じて、各地での取り組みを支援した。

M 3：「JFA キッズプログラム」の推進

- 将来的に自主採算運営が全国展開されることを目標に、各種報告書・アンケート集約・視察等を通じて現状把握に努めた。
- Jリーグアカデミー・4種関連の各種会議を通じて、Jクラブ・4種担当者と「JFA キッズプログラム」のコンセプト・取り組み状況を共有した。
- キッズ関連の各種刊行物・キッズキットの展開を実施し、「モデル FA 制度」へのサポートを行った。

M 4：中学生年代の活性化

- 2006 年度末をもって支援制度を終了した「トライアル FA（中学）」の関係者にアンケートを実施し、2007 年度には自主採算により活動を継続する都県協会が存在することを把握した。
- 2002～2006 年度の登録者に関するデータや 2006 年度における「トライアル FA」の経費に関する分析を行い、ミッションの主旨を始めとする次年度以降の方向性について具体的な検討を行った。
- 一般の方はじめトライアル FA 以外の関係者に対して、JFANews 等を通じて、様々な活動や好事例の展開を行うまでに至らなかった。

M 5：エリート養成システムの確立

- 技術委員会キッズプロジェクトと協力し、エリート選定基準等を含めた「キッズエリート」のコンセプトを提示した。
- 「47FA ユースダイレクター研修会」を通じて、ユース育成における「キッズエリート」の重要性を強調し、技術委員会からのアプローチを促進した。
- Jリーグアカデミー・4種関連の各種会議を通じて、Jクラブ・4種担当者と「キッズ年代のエリート養成システム」のコンセプト・取り組み状況を共有した。

M 6：女子サッカーの活性化

- 高校女子サッカー全国高体連加盟に向けた業務を行い、組織体制の整備・構築を図った。その結果、今年度は、全国高体連加盟条件を満たすことができず、次年度申請に見送られることが決定した。
- 都道府県協会における女子サッカーについて、CHQ 都道府県協会ミーティングを通じて、意見交換を行うことができた。また、強化・競技力向上等、都道府県協会によって、女子サッカーに対する思い入れが異なり、対話を行いながら、理解を図った。

M 7：フットサルの普及推進

- 都道府県協会へフットサルの体育館利用に関する実態データをフィードバックし、調査データをもとに各体育館の問題の解決を要請した。また、体育施設向け機関誌「月刊体育施設」の連載特集や体育施設協会スポーツフロアー部会において、現状の体育館施設の問題を提起し、施設管理者やフロアーを施工する企業へのアプローチを図った。
- チャレンジ FA で行われている「東京 FA フットサル運営スタッフ登録制度」を見学研修会に設定し、試合会場設営方法や登録の仕組みを研修し、全国から集まった担当者の活動意欲を高めた。

M 8：リーグ戦の推進と競技会の整備・充実

- CHQ 都道府県協会ミーティングやトライアル FA（中学）のジョイントミーティングをはじめとする各種会議等で、関係者と「2・3 種年代の年間・能力別リーグ戦」について話し合いを持つことができ、それぞれの課題等、情報を収集することができた。
- CHQ・技術部・事業部の横断的な取り組みとして「2・3 種年代の年間・能力別リーグ戦」の推進

に努めるため、定期的に会議を実施し、関係者の課題解決に向けた施策の検証を行った。

M 9：地域／都道府県協会の活性化

- CHQ 都道府県協会ミーティングはじめ様々な機会に、ディスカッションの場を設け積極的なコミュニケーションを図ることができ、各都道府県協会から挙げられた課題や対応方針等、JFA 事務局内でも情報共有に努めた。
- チャレンジFAについて、模範となる活動においては、見学研修会の設置や JFANews を通じて、他県の参考になる様、情報提供に努めた。
- CHQ タスクフォース（組織機構改革と未登録チームの登録推進）においては、各都道府県協会より提出された活動報告書を分析した。
- 都道府県協会と連結した地区／支部協会・市区郡町村協会の会計処理が行われることが必要であるという JFA の認識を、全国理事長会議や CHQ 都道府県協会ミーティングを通じて提示することができた。
- 「グラスルーツ活動」は、「サッカーファミリーの拡大」、「地域／都道府県協会の活性化」において欠くことのできないものであるということ、CHQ 都道府県協会ミーティングなどを通じ、都道府県協会に展開した。

M10：中長期展望に立った方針策定と提言

- 「JFA2005 年宣言」の浸透／PR ツールについて、都道府県協会からの指摘を反映し、2006 年度ツールから改善したものを制作・展開を行った。
- 部長研修会を中心に「業務プラン 2008」の総括ならびに「業務プラン 2010」の策定を行った。
- いくつかの都道府県協会においては、「JFA2005 年宣言」や「キャプテンズ・ミッション」を踏まえた独自の目標設定がなされてきている。
- 「CHQ フューチャープロジェクト」を開催し、新キャプテンズ・ミッションや CHQ 関連施策について意見交換を行い、JFA と都道府県協会の両者にとって何が良い方法で如何に進めていくべきなのか等、検証することができた。

M11：スポーツマネジメントの強化

- SMC の新たな推進体制を確立し、SMC 本講座はカリキュラムの精査を行いながら 8 月の開講以来、順調に運営を行っていくことができた。また、具体的な展開には至らなかったが、都道府県サテライト講座における推進体制およびカリキュラム案の検討を行い、大まかな方針が確定した。
- SMC の広報活動の一環として、JFANews を中心とした情報発信を行ったのに併せて、SMC 専用の情報発信媒体の準備を進めており、その概要が固まりつつある。また、広報戦略の結果、2007 年度本講座については、定員を上回る応募があった。

以上